



大妻多摩中学校

二〇二六（令和8）年度

入学試験問題（第一回）

【国語】

時間 50分

2月1日（日）

【注意事項】

- 1 問題は22ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

何でもハラスメント

① マルハラという言葉が、2024年の春、新聞やテレビ、ネットを賑わせた。マルとは句点のことで、マルハラスメントを略してマルハラ。中高年がLINEなどのSNSで送信する際、文末に句点を付けることが、威圧的に取られるという話だ。「連絡をください。」わかりました。」等の句点が、若者には怒っているように感じられるらしい。

いやはや、なんでもハラスメントになる時代だなど驚く。と同時に、世代間でのギャップがコミュニケーションの妨げになるのだとしたら、お互いの感覚を理解して、円満にやりとりをしたいものだとも思う。これはハラスメントというよりは、わりとシンプルな誤解ではないだろうか。

若者が、LINEでの会話に句点があることに違和感を抱くのは、それが限りなく話し言葉に近いと知っているからだだろう。だから「マル」がついていると、あえて付けたように感じてしまう。たとえば日常会話で「わかった」ではなく「わかった、以上!」と言われたような感じではないだろうか。後者には「もうわかったから、このことにいつまでも拘泥するな」的なニュアンスが漂う。

②

② いっぽうで中高年世代にとっては、LINEといえども画面に文字が出る以上、あくまでそれは書き言葉なのだ。書き言葉であるならば、文末には句点を打つのが当然であると思ってしまう。

③ もちろん若者たちも、いっさい句点を使わないわけではなく、学校のレポートや会社内でのメールなどでは、文末にマルを入れているはずだ。つまり、そこがどういう場なのかの認識の違いである。

④

④ 私は、若い世代とのやり取りでは、一文やひと言で済むときには句点は省略し、長めの文章になる時は付けている。日常的にやり取りしていれば、この人はこういうルールなんだと伝わるので、さほど神経質にならなくてもいい。お互いのルールや感覚を探りあっているときには、年代の違いを考慮するのは有効だと思う。

⑤

マルで終わる日本語

また、マルハラの少し前に「おばさん構文」というのも話題になった。長文で、やたら絵文字や句読点が多いというものだ。ここでも句点が、マイナスのイメージで捉えられている。

そこでふと、自分の短歌を思い出した。⑥ 日本語って、○で終わるんだな、それってなんだか素敵なことだな と思い、詠んだ一首だ。世の中的には分の悪い句点だが、こういう見方もできるのでは？ と思い、
(注1) エックス、とうこう
X に投稿した。

句点を打つのも、おばさん構文と聞いて…この一首をそつと置いておきますね〜

優しさにひとつ気がつく Xでなく○で必ず終わる日本語

ちょうどマルハラの話と重なり、またたくまに10万を超える「いいね」がついた。朝日新聞や毎日新聞、読売新聞のコラムでも、マルハラの話にからめて取り上げられ、反響の大きさに自分でもびびったりした。みなさん若者に気をつかいながらも、どこかで「マルをつけたい」「句点があるほうが落ち着く」「そんなつもりじゃない」と感じる人が多かったのかもしれない。モヤモヤを抱えていたところに「マルで終わるって日本語の優しさでは？」という一首のメッセージが、ダイレクトに届いたようである。

リプライや引用リツイートには「私の文章も、こういう気持ちで見えてほしい」「○は怖くない。実は優しい！」「おじさんも助けてくれて、ありがとう」等々、中年からの喜び(?)の声があふれていた。一首の短歌が、どんなふうにも人々に手渡されていくか、可視化されるのがXの醍醐味の一つだ。

ちなみに、ここまで拡散されると、もちろん思いがけないリプライも付く。多かったのは「Xで終わる言語があるんですかね」というもの。いちおう反論というか補足をしておくと、「Xでなく」とは、「今から句点の○を、○×の○と見立てますよ」という伏線としての表現である。

「曖昧表現が好き」という感覚

マルハラ問題に、もうひとつ日本語らしい観点があるとすると、「曖昧表現が好き」というのが考えられる。若い人が「句点で言い切られるのが怖い」というのは、裏返せば「言い切らないで柔らかく終わったほうが優しい」という感覚だ。

三十年ほど前になるが、若者の「とか弁」というのが話題になった。「映画とか見て」「アイスとか食べて」といった言い回しだ。映画以外は見てなくて、アイス以外は食べていなくても、こういう表現をする。それまでは「とか」と言えば、並列や列挙に用いるものだった。「トマトとかピーマンとかを育てています」といった具合に。今では(注2)大辞泉にも、二番目の用法として「断定を避け、あいまいにするために話の後に付ける。『学校とかから帰る』『補説』1990年代前半から若者の間で使われ、すぐに大人にも広まった。多用する話し方を『とか弁』ともいう。」と記されている。

あつという間に定着した背景には、日本人の曖昧好みがあるだろう。(7) 当時、とか弁に対して渋い顔をしていた大人たちだつて「今日の日曜あたり、ゴルフでもしませんか」というような言い方を好んでしていた。月曜にテニスをすることは、ありえないのだが「今日の日曜に、ゴルフをしませんか」と言うと、ソフトさに欠ける。それと同じ理由で、よりふんわりした表現として「とか弁」は愛され広まった。

似たような例は他にもあつて「こちら、ピザトーストになります」の「なります」や、「メニューのほう、おさげします」の「ほう」などなど。「ピザトーストです」「メニューを」とはつきり言わないほうが、まどろっこしいが丁寧な印象になる。

文末の断定というところで言うと「会議を始めます」「会議を始めさせていただきます」「会議を始めさせていただきます」の順に、だんだん(注3)婉曲さが増していく。始めるということに変わりはないのだが、これがLINE等の文面で「会議を始めます。」となると、もしかしたら若い人には、「会議を始めます。(キッパリ！ 文句あつか?)」というニュアンスに見えるのかもしれない。

だいたい新しい言い回しというのは若い人から生まれて、大人が渋い顔をするというのが定番だ。その若い人から生まれるのが「とか弁」をはじめ、句点ナシなどの新しい曖昧表現というところが面白い。(8) 本質は上の年代と変わっていないとも言える。

もちろん曖昧というのは、決して悪いことではなく、日本語のコミュニケーションにおいては丁寧な印象を与えてくれる。言葉をむき出しではなく、何かにくるんだり、クッションをはさんだりして渡すほうがよしという文化である。ただ、あまりに過剰だと、なんとというか責任逃れのムードが漂って、よろしくないし、誤解を招くことにもなる。

「前向きに検討させていただきます」は、ほぼやらないという意味合いだが、外国の人には通じにくい。時にはきつぱりと「無理です」と言ったほうがいい場面もあるだろう。(注4) 就活用語で「お祈りメール」(不採用通知の婉曲表現。文末に○○様のこれからのご活躍を心からお祈り申し上げます等と書く)というのがあるが、あれも心にもないことを形式的に言い過ぎると、かえって空々しい。

⑨ 潤滑油としての曖昧表現だが、使いすぎると滑るということを心しておきたい。

いろいろな「界限」

最近、私が気になる不思議な言い回しは、話の途中で「……とあっていて」というもの。思っていて、どうなのかと聞いていると、特にどうというわけではなく、ただ思っていることのようなのだ。それを「……と思っています」と言い切らずに、言いさしの表現のまま、次の話に進んでいく。おばさんとしては、とても気持ち悪いのだが、テレビなどでも非常によく耳にするので、これも定着していくのかもしれない。21世紀の曖昧表現の一つである。

また、すでに定着した感のある「界限」という言い方も、一種の曖昧表現ではないだろうか。もともとは、特定の地域や場所一帯を表す語だったのが、あるジャンルや趣味に関心を持つ人々、さらにそのコミュニティを指すようになった。「アニメ界限」「自然界限」というように。界限という語が本来持つ「そのへん」という輪郭の曖昧さが、きつちりした「所属」よりも気楽で心地よい。中心にいても(めっちゃ熱心)、境界にいても(まだ初心者)とりあえず「界限」と言えるようなフワツとした感じが、多くの人の心を掴んだのではないかと思う。

⑩ 「風呂キャンセル界限」というのは、要するに風呂が面倒で入るのをやめる人々を指すが、まずそういう界限があるよということ

を、この言葉は言ってくれているわけで、ちよつとホツとさせられる優しさがある。「面倒なので風呂に入りません」とストレートに言うと、なんだかズボラな感じがして後ろめたい。でも「疲れたから、今日は風呂キャン」なら、とても言いやすい。

そもそもキャンセルというのは、一度は約束したものを取りやめるといふことなので、気持ちはあるのだけれど、なんらかの理由によってやめるんですよというニュアンスが漂う。それが程よい(注5) エクスキューズになってくれているのが魅力だ。界限という言葉によって、少数派ではないというイメージも生まれる。

「風呂キャンセル界限」は、世の中で話題になっていくなかで、精神的な辛さを抱えるがゆえに入れたい人への配慮という視点も加わった。この言葉の持つ、「一般的にはマイナス認定されていることを、現にあるものとして肯定する」という優しさが、生んだことではないかと感じる。

齊藤京子さん(注6) ヒコロヒーさんによる「キョコロヒー」というテレビ番組を見ていたら、風呂キャンセル界限以外にも、いろいろな使用例があるとして、以下のような界限が紹介されていた。

睡眠キャンセル界限(様々な事情で寝ようとしないうこと)、ごはんキャンセル界限(食事よりも他のことを優先する)、歯磨きキャンセル界限(歯を磨くことが面倒くさく磨かない)、⑪ キャンセル界限(働くことが嫌になり休んでしまう)、健康キャンセル界限(体に悪そうな食べ物を食べる)。

ヒコロヒーさんは「寝てない、ごはんを食べてない、歯磨きをしてない、働くのが面倒くさい、不健康……で、いいやん」と言っていて、ある意味その通り。つまり、ズバリ言えばそういうことを、婉曲に表現しているのが○○キャンセル界限なのだ。寝ないとかご飯を食べないとか歯を磨かないとか、本来はまことに個人的なことを、そういうのをしない人々のグループ(界限)があつて、自分はその中の一人であるという言い方をする。ちよつとした安心感を得ることと、後ろめたさの緩和(緩和)。それがこの曖昧表現の心地よさだろう。この言い方が流行っていると聞いたヒコロヒーさん、「(私は)流行語キャンセル界限」とまとめていた。⑫ さすがである。

(たわらまち) 俵万智『生きる言葉』(新潮新書)より

(注1) X——SNSのひとつ。短文を不特定多数に向けて発信できる。また、「いいね」機能で他者の投稿に反応したり、「リプライ」や「引用リツイート」機能で他者の投稿に言及することができる。

(注2) 大辞泉——小学館が発行する国語辞典。

(注3) 婉曲——はつきりと伝えるのではなく、遠回しに表現するさま。

(注4) 就活——就職活動の略。

(注5) エクスキューズ——言い訳。弁解。口実。

(注6) ヒコロヒーさん——お笑いタレント。

問1 ——線部①「マルハラという言葉が、2024年の春、新聞やテレビ、ネットを賑わせた」とありますが、「マルハラ」に対する

筆者の考えとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何でもハラスメントになってしまう社会に対して危機感を抱くべきだ。

イ 若者が感じるマルハラは中高年との感覚の違いによる誤解から生じている。

ウ 若者はLINEでの会話に句点があると、それがあえて付けられたものだと思える。

エ 若者は文字によるやりとりで句点をまったく使わないわけではない。

問2 次の文章が入る箇所として最も適切なものを、本文中の空欄②③④⑤の中から一つ選び、数字で答えなさい。

《普段着であいさつしに来たつもりが、年上の人がスーツ姿で現れたら、居心地が悪いし、なんだか自分の服装をとがめられたような気持になる。無言の圧力……それがハラスメントと感ぜられるのではないだろうか。》

問3 —線部⑥「日本語って、○で終わるんだな、それってなんだか素敵なことだな」とありますが、ここで筆者が言いたいことを、本文中の短歌に基づいて四十字以内で説明しなさい。

問4 —線部⑦「当時、とか弁に対して渋い顔をしていた大人たちだって『今度の日曜あたり、ゴルフでもしませんか』というよ
うな言い方を好んでいた」とありますが、ここで筆者が言いたいこととして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選
び、記号で答えなさい。

ア 若者の「とか弁」は、大人の直接的な言い方に比べてソフトな言い方である。

イ 若者の「とか弁」に対し、大人たちだって「でも弁」を使っていた。

ウ 「とか弁」に肯定的だった大人は、婉曲的な言い方を好んでいた。

エ 若者の曖昧な言い方に否定的だった大人たちも曖昧な言い方を好んでいた。

問5 次の文の空欄に五字以内で言葉を補って曖昧な言い方にしなさい。ただし、本文にすでに出ている「とか」「あたり」「でも」以外の言葉を補うこと。

映画 を見に行くのはどうかな？

問6 — 線部⑧ 「本質は上の年代と変わっていない」とありますが、どういふことか分かりやすく三十字以上、四十字以内で説明しなさい。

問7 — 線部⑨ 「潤滑油じゆんかつゆとしての曖昧表現だが、使いすぎると滑すべる」とありますが、この意味としてより適切なものを、次のア～エの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 曖昧表現は流行り言葉だが、過剰だとつまらなくてスベってしまうという意味。

イ 曖昧表現は丁寧な印象を与えるが、過剰だとわざとらしくて白々しいという意味。

ウ 曖昧表現は日本人には直接的で分かりやすいが、外国の人には伝わらないという意味。

エ 曖昧表現はクッションをはさんだ優しい印象を与えるが、過剰だと伝わりにくくなるという意味。

問8 — 線部⑩ 「『風呂ふうろキャンセル界限』というのは、要するに風呂が面倒めんどうで入るのをやめる人々を指すが、……でも『疲れたから、今日は風呂キャンで』なら、とても言いやすい」とありますが、このような「〇〇キャンセル界限」という曖昧表現の心地よさを筆者が端的たんてきに指摘している箇所を本文中から二十四字で探し、最初の五字を答えなさい。

問9 空欄 ⑪ に入る言葉を漢字二字で答えなさい。

問10 — 線部⑫「さすがである」とありますが、ここでの筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「流行語キャンセル界限」という言葉は流行語の使用を避けることの表明であるにもかかわらず、その言葉自体に「○○キャンセル界限」という流行語が既に用いられているという点において、誤った用い方であると否定的に捉えている。

イ 「流行語キャンセル界限」という言葉は流行語の使用を避けることの表明であるにもかかわらず、その言葉自体に「○○キャンセル界限」という流行語が既に用いられているという点において、そのちぐはぐさがおもしろいと肯定的に捉えている。

ウ 「流行語キャンセル界限」という言葉は流行語の使用を推奨することの表明であり、その言葉自体に「○○キャンセル界限」という流行語が既に用いられているという点において、とても適切な用い方であると肯定的に捉えている。

エ 「流行語キャンセル界限」という言葉は流行語の使用を推奨することの表明であり、その言葉自体に「○○キャンセル界限」という流行語が既に用いられているという点において、意味が重複して分かりにくいと否定的に捉えている。

問11 生徒が「界限」という言葉について意見を交わしています。本文の主張を踏まえ、会話内の X Y Z に入る文として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

生徒A…最近「界限」って言葉が流行ってるよね。うちのお姉ちゃん大学生なんだけれどね、「伊能忠敬界限」を自称しているよ。この界限は、どういう人の集まりを指すのか分かる？

生徒B…えっ、どういう意味だろう？ 地図を作るのが好きな人のこと？

生徒A…正解はね、「お散歩が好きな人」の集まりを指すんだって。お姉ちゃんは近所をぶらぶら散歩する程度なんだけれど、お姉ちゃんの友達には、一日かけて山手線を一周歩いちゃう人もいるみたいよ。

生徒B…へー、そうなんだ。

X

生徒A…「○○キャンセル界限」っていう言葉も流行ってるよね。「風呂キャンセル界限」とか、「外出キャンセル界限」とか。

「キャンセル界限」とか言つて、めんどくさいだけじゃんって思うよね。

生徒B…うーん、実は私はそれだけじゃないなって思うんだよね。うちのお姉ちゃんはどうしても朝起きるのが難しいんだけど、「起床キャンセル界限」を自称することで、すこし心が救われてるみたいに見えるんだよね。

生徒A…なるほど、

Y

生徒B…2024年に大ヒットした^{ひらぎ}柊マグネタイトさんの曲である「テトリス」では、「人生キャンセル界限」っていう、すべての「○○キャンセル界限」をひとつにまとめたような表現が使われていて話題になったよね。

生徒A…この曲は、「興味が出てても本気でやつても全部空回りで…ねえ誰か許して」という悩みが核となっており、人生の様々なことがうまく行かない自分に対して不安や嫌気がさした末に、「人生キャンセル界限」を自称したと読むことができるね。

生徒B…

Z

生徒A…「界限」っていう言葉は、意味や使われ方がどんどん進化していきそうだね。

A 直接言うととげとげしい印象を与えてしまうけれど、曖昧表現を用いることで婉曲的に自分の言いたいことを相手に伝えることができるという、話者の優しさを見出すことができるね。

I 自分だけではないのだと考えることによって安心感につながっているだけでなく、精神的な辛さを抱えるがゆえにそれができない人への配慮という観点もこの言葉に込められていそうだね。

U すごく熱心な人も、そこまで熱心じゃない人も、とりあえず「界限」と言えるようなフワツとした感じが、この曖昧表現の心地よさなんだろうね。

E 「やる気がないからやらない、失敗するから諦める」^{あきら}だどずばらな感じがするけれど、このような言い方をすれば仕方ない理由がある感じがして、程よいエクスキューズを得ることができるね。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学一年生の「わたし（松永要）」は、団地の「お隣」に引っ越してきたネパール人の一つ年上の女の子「サリタ」に、料理を通して歩み寄ろうと模索している。このことを友だちの「朝田光」に相談すると、光は自分の知り合いの七十代のおばあちゃん「がみババ先生」に、夏休みの間、「わたし」が料理を習うことができるように話をつけてくれた。これまでに「わたし」は、サリタとつながるために、レモンライス、ブルーベリージャム、ギョウザのレッスンを受けている。

「あんだ、また何か①厄介事を抱えてきたね」

わたしの顔を見るなり、がみババ先生はあきれたように言った。

「喜んだり落ちこんだり、退屈しなそうであらやましいこった」

②

ささいなことで気持ちが上下する。思ってもみなかった感情が出てくる。そんな自分にわたしがいちばんおどろいている。

「あの、今日はこの料理を教えてほしくて、来ました」

バッグから料理ノートを取り出して、レシピを貼ったページを開き、がみババ先生に手渡す。レシピは、お父さんのパソコンとプリンターを借りてプリントアウトしたものだ。

「どれどれ。キール？」

「はい。ネパールではお祭りによく食べるそうなんですけど、サリタちゃんたちは体の調子がよくないときにも食べるって前に聞きました。だからキールを作って、光ちゃんに届けたくて」

「光に？」

光ちゃんが夏かぜと夏バテで体調を崩していると話すと、がみババ先生はあきれ顔をした。

「あのばかたれば。自分の限度ってやつを考えずに突っ走ってぶっ倒れたんだろ。で、このレシピはサリタに聞いたのかい」
「いいえ、その、サリタちゃんとはちよつと気まづくなっちゃって」

本当はサリタちゃんからキールのレシピを教わりたかったけれど、あんな空気になってしまったらとてもじゃないけど言い出せなかった。代わりにネットで調べて、できるだけ材料が少なくてかんたんそうなものを選んできたのだ。

「ふうん。あたしゃキールとやらを作ったことはないけど、材料はだいたいあるし、仕方ないからつきあってやるよ」
「仕方ないという割に、台所に向かうがみババ先生の足取りは軽い。もしかしたら、初めて作るレシピに内心わくわくしているのかもしれない。」

銀色の台所でエプロンを着けて、手をよく洗う。

「まずは米を洗って、三十分ほど浸水させる必要があるようだね」

「どうして浸水させるんですか？」

「米が水を吸うことで、米の中心まで熱が伝わりやすくなる。炊き上がりまでの時間が短くて済むんだ。これはふつうの白がゆを作るときでも同じだから、覚えておきな」

わたしは言われたとおりにお米を洗い、水を張ったボウルに浸した。待ち時間の三十分は、がみババ先生と二人で新聞紙を折って生ゴミ入れを作った。新聞紙が生ゴミの水分を吸ってくれるので、いやなおいも防げるらしい。

三十分が経ったら、お米をざるにあげて水気を切ってから鍋に入れる。そこに牛乳と砂糖を加えて、火にかける。

「火は中火、沸騰したら弱火にしな。こげないように、木べらで混ぜながら煮るんだ」

「はい。ギョウザよりずっとかんたんですね」

「手順は単純だけど、こうしてつきつきりで三十分煮るのはなかなか手間だよ」

がみババ先生の言うとおりに、真夏に火のそばに立ち続けるのはなかなかきつい。額にも背中にもあつという間に汗がにじんで、木べらを動かす手もだるくなってくる。料理って、体力も筋力もいるんだなと、改めて思う。

「ところで、今度はなんでサリタと気まずくなったんだい」

③

サリタちゃんの家で起きたことを話すと、がみババ先生はふうんとうなずいた。

④ 「生理中の女性は穢けがれているから台所に入れない。そういう風習が残ってる国もあるのは知ってたけど、ネパールもそうだったんだね」

⑤

「だって実際に汚きたないわけじゃないし、食べものを触まったって問題ないし」
動かす木べらが鍋の底に当たって、ごつごつとかたい音を立てる。

「わたし、ネットで調べました。ネパールにはチャウパディっていう、生理中の女性を家から隔離かくりする慣習があったんだけど、もうずっと前に国が法律で禁止したって。ネパールの人たちだって、そういう差別はいけないうって考えているはずなんです。なのに……」

サリタちゃんは、そうじゃないみたいだった。生理にまつわるしきたりを今も守り、わたしを穢けがれているとみなして、強く押した。最後には怒おこり、わたしに背中を向けた。

拒絶きよげつされてしまったんだと、思った。

⑥

「相手の国の風習をよくないと感じて、変だなんて言っちゃいけないかった？ こんなふうに気まずくなるくらいなら、わたしが黙だまってがまんすればよかった？ でも、でも……」

胸が苦しくなつて、ぎゅっと目をつぶる。がみババ先生は止まっていたわたしの手から木べらを取り、鍋の中を静かにかき混ぜた。

「あたしならサリタに言うね。こういうことをされるのはいやだ、傷つくんだって」

「友だちなのに、そんなにはつきり言っちゃっていいんですか？」

「友だちなのに、いやなことをいやだと言っちゃいけないのかい？」

がみババ先生は手を止めずに言った。

「どんな理由であれ、片方だけが黙ってがまんする関係はおかしい。相手の意見を聞くことと同じくらい、自分の意見を伝えることも大事なんだよ。あんたは苦手なんだろうけどさ」

⑦ 凶星をつかれ、わたしはうなだれた。

「ま、あんたが意見を伝えたところで、サリタがどうするかはわからない。今どきの子だし、古い伝統の中の偏見へんけんには気づいてそうだけだね。とにかく、話さなけりゃ先に進めないんだ」

「……なんだか、大変そう」

楽しいこと、穏おだやかな時間。それだけをサリタちゃんと味わえたらいいのに。そう言ったら、がみババ先生は「⑧ あんたらしいねえ」と声を上げて笑った。

「めんどろなことがいやなら、つきあうのをやめりゃいい。あんたはどうしたいんだい」

心の中に向かつて、改めてたずねてみる。

わたしは、どうしたい？

⑨ 暗いところでちぢこまっているもう一人の自分が、そつと顔を上げる気配がした。

「……もう一度話したい、です」

すんなり言葉は通じないし、気持ちがかみあわないこともある。正直ちょっとめんどろだし、これからも理解しあえない部分はたくさん出てきそうな気がする。

それでも、つて思う。

⑩ 「どうやら、あんたにとってサリタは、『ネパールの子』じゃなくなったんだね」

くくつ、とがみババ先生がのどの奥おくで笑う。

サリタちゃんは、ネパールで生まれ育った女の子だけれど。どういうことだろう。

「これまでのあんたなら、今回の件で『ネパールの子はこうなんだ』つて変に納得しちまって、サリタと黙きよりって距離を置きそうじゃ

ないか。でも、今のあんたはそうじゃない。サリタ個人に対して、思うところがあるようだからさ」

「そうかな……よくわからないです」

「ああ、別にいいさ。それよりあんた、ちゃんと鍋の中を意識してやってるかい？」

はっとして鍋を見る。お米は牛乳をたっぷり吸ってふくらみ、とろとろとやわらかくなっていった。

「こころでスパイスの出番だよ。カルダモンとシナモンを大さじ一ずつ加えて混ぜな」

「はっ」

引き出しからまちがいなく大さじを取り出して、がみババ先生が出してくれた二つのスパイスを量り、鍋に振り入れる。さわやかな香りが湯気と共に、⑩ 立ち上る。

がみババ先生は器を二つ取り出して、できたてのキールをよそった。

「見た目は白がゆだね。においはちがうけど」

《中略…がみババ先生は、仕上げにレーズンとかぼちゃの種をトッピングする》

和室に移動して、いただきますと手を合わせる。

牛乳味の甘いおかゆ。おいしそうに見えるけれど、食べるのにはちょっと勇気がある。恐る恐る一口食べると、くつきりとさわやかな、レモンに似た香りが鼻に抜けた。甘い牛乳は⑪ お米を包んで、飲みこむと、おなかの内側にはわりと温かな膜がでる。かぼちゃの種とレーズンもいっしょに食べると、まるでスイーツだ。

「おごし」

ほっつとため息がこぼれる。がみババ先生も「悪くないね」とうなずいた。

「食べるとおなかから⑫ あったかくなって、元気になるそうです」

「ああ。まさに、キッチンファーマシーってやつだね」

「ファーマシー？」

「直訳すれば、『台所薬局』だ。ちょっとした不調なんかは、台所にあるもので治しちまおうってことさ」

「へえー」

「このキールに入ってるスパイスにも、それぞれ効果があるって知ってるかい？」

首をかしげるわたしに、がみババ先生が説明してくれた。カルダモンには消化を促進^{そしん}して食欲を増進させる効果が、シナモンは体を温め、生理痛をやわらげてくれる効果があるらしい。ついでに、がみババ先生が加えてくれたかぼちゃの種にはタンパク質やビタミンが含まれていて、疲れたときや夏バテなんかにもぴったりだそうだ。

「サリタちゃんも、スパイスのいろんな効果を知ってたのかな」

だからスパイスを使つて、温かい飲みものを作ろうとしてくれたんだろうか。

「サリタが、あんたを穢れていると感じたのは本当かもしれない。でも、体調の悪そうなあんたに飲みものを作って飲ませようとした、その気持ちも本当なんだよ」

がみババ先生の言葉が、

⑭

胸に落ちてきて、わたしはうなずいた。

理解しあえないこと、共感しあえないことは、いけないことのような気がしていた。でも、そうじゃないんだ。相容れない部分を抱いたままでつて、お互いを思いやることはできる。

サリタちゃんが、そうしてくれたように。

わたしはキールを完食して、ぱんと両手を合わせた。

「今度、サリタといっしょにここに来な。あんたたち二人に仕事をさせてやろう」

「仕事？」

「ああ。それに、あんたから話を聞くばかりなのも飽きてきたんだよ。いいかげんサリタの面を拝みたいしね。夏休みが終わる前

に、一度連れといで」

それを聞いて、はっとした。夏休みが終わるといふことは、がみババ先生の料理教室もおしまいってことだ。光ちゃんからも最初

に、「夏休みのあいだだけ」って言われているし。
⑮ 終わりを意識して、胸がきゅつとなった。

(おちあいゆか
落合由佳『要の台所』(講談社)より)

問1 — 線部①「厄介事」とは何ですか。これを説明した次の文の□に入る内容を、本文中の言葉を用いて八字以内で

答えなさい。

「わたし」がサリタと□になっちゃったこと。

問2

②・③・⑤・⑥に入る言葉として最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、

記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア はい……。ジェットコースターに乗っているみたいだなんて、思います

イ はい。でもそれって、変ですよ？

ウ ええと、文化のちがいのせい、というか

エ なんですか、これ

オ わたし、どうしたらいいんだろう

問3

——線部④「生理中の女性は穢けがれているから台所に入れない」とありますが、このような考え方を「がみババ先生」はどのよ
うに評価していますか。ここより後の本文中より十字以内で抜き出して答えなさい。

問4

——線部⑦「凶星をつかれ」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「凶星をつかれる」のここでの意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 欠点をさらりと指摘してきされる イ 胸の内をびたりと言いつてられる

ウ すべきことを指図される エ とことん反論される

(2) ここで「わたし」が「凶星をつかれ」た内容を、本文中の言葉を用い、三十五字以内で答えなさい。

問5 — 線部⑧「あんたらしいねえ」とありますが、本文中から読み取れる「わたし」の性格として最も適切なものを、次のア～

エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 消極的で自己本位の性格
- イ 自由に楽観的な性格
- ウ 温和で争いを好まない性格
- エ 冷静で正義感の強い性格

問6 — 線部⑨「暗いところでぢこまっているもう一人の自分が、そつと顔を上げる気配がした」とありますが、この時の「わたし」の心の中にわき起こったと考えられる気持ちを、本文中の言葉を用い、「ではなく、、という気持ち。」と

いうかたちで三十五字以内で答えなさい。

問7 — 線部⑩「どうやら、あなたにとってサリタは、『ネパールの子』じゃなくなったんだね」とありますが、サリタへの認識はどのような変化があったと考えられますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 理解できない外国人という枠組みわくぐみの中で見るのではなく、個性や意思を持つ一人の人間として関わりようとしている。
- イ よその国からやってきた人として差別するのではなく、今は同じ日本に住む仲間としてとらえようとしている。
- ウ ネパールについて理解して自分が相手に合わせようとするのではなく、日本人として誇りほこりをもって接しようとしている。
- エ ネパールの子供として見るのではなく、ひとりの大人として対等な関係を築き、個別に向き合おうとしている。

問8 ⑪・⑫・⑬・⑭ に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ

選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア じわーっと
- イ とろりと
- ウ すうっと
- エ ひらりと
- オ すとんと

問9 — 線部⑮「終わりを意識して、胸がきゅっとなった」とありますが、この時の「私」の心情として最も適切なものを、次の

ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 料理に対する知識と技術に優れているがみ巴巴先生の指導に必死でついて行こうとし、多くの調理方法を学ぶことができるが、その教室ももうすぐ卒業となると、これまでの自分の努力がしみじみと思ひ出される気持ち。

イ 歯に衣着せぬ物の言い方をするが、知恵や行動力、そして思いやりがあり、自身の悩みの解決の糸口を見出す手助けをしてくれるがみ巴巴先生と接することができる期間も残りわずかであると思うと、さみしい気持ち。

ウ 料理に対して常に厳しいのみならず、思春期の女子中学生の気持ちに配慮せず傷つくことも平気で言ってしまうがみ巴巴先生のもとを、あと少しで離れることができると思うと、何だかほっとする気持ち。

エ 本当は中学生の自分のことを厄介だと思ひながらも仕方なく面倒を見続けてくれたがみ巴巴先生に対して、最後まで自分の成長を見せることができず、申し訳なささと感謝とが入り混じった複雑な気持ち。

問10

この作品『要の台所』の魅力の一つとして、比喩が巧みに用いられているということが挙げられます。例えば、物語の最後には、「わたし」の以下のような思いが記されています。□に入る「食品に関する言葉」を、本文中から五字以内で抜き出しなさい。

みんなの『要』じゃなくていい。だれかの毎日を今よりも少しだけすこやかにおいしくする、その手伝いができる

『□』
『みたいな』人に、わたしはなろうって思う。

問11 線部「料理ノート」に関連して、本文を読んだKさんは、国語の授業で「わたし」の書いた「料理レシピ」を再現する活


動を行いました。後に示す会話は、この「料理ノート」の右半分の【メモ】欄を見て、情報の整理の仕方について、生徒たちが話し合っている場面です。この会話の中から、適切でない発言を一つ選び、ア～エの記号で答えなさい。

ア 生徒A「上から一つ目の  印、『30分間で新聞紙で


生ゴミ入れを作る。』は、キールの作り方には関係ない情報である上に、感想としてここに記載きさいするのは最適とは言えないね」

イ 生徒B「上から一つ目の  印、『こげないように木

べらで混ぜながら』という情報は大切だね。さらにこの直前でがみババ先生の言っていた『火は中火、沸騰したら弱火』という情報も重要だから、加えておいた方が良いね」

ウ 生徒C「一方で、上から二つ目の  印、『簡単』や

『きつい』という情報は『ポイント』というより『感想』だから、書くのなら  印に変えた方が良いでしょう」

エ 生徒D「さらに、上から二つ目の  印、『木べらで

まぜるとごつごつとかたい音がある』については、『わたし』の料理技術が未熟であることが理由なので、『手早く静かに混ぜる』という文言に変えた方が良いでしょう」

〇〇年×月△日

キール（ネパール料理）





【材料】


米…
牛乳…
砂糖…
レーズン…
カルダモン…
シナモン…
ナッツ…

【手順】

- ① 米を洗って、水を張ったボウルに30分ほど浸す。
- ② 米をざるにあげて水気を切ってから鍋に入れる。
- ③ 鍋に牛乳・砂糖を加え、30分煮る。
- ④ ……

【メモ】

-  米が水を吸うと、中心まで熱が伝わりやすくなり、炊き上がりまでの時間が短くて済む。……白がゆも同じ。
-  30分間で新聞紙で生ゴミ入れを作る。
-  こげないように木べらで混ぜながら煮る。
-  手順は簡単だが、つきっきりで30分煮るのはなかなかきつい。
-  木べらでまぜるとごつごつとかたい音がある。

 豆知識・理由  ポイント補足  感想

三

次の各問いに答えなさい。

問1

次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に直しなさい。

- ① 畑をタガヤす。
- ② イチジルしい成長が見られる。
- ③ 実家は酒屋をイトナんでいる。
- ④ 念仏をトナえた。
- ⑤ ソナえあれば憂い無し。

問2

次の①～⑤の諺・慣用表現の□に入る漢字一字を答えなさい。

- ① 目は□ほどに物を言う。
- ② 目の□を変えて猛練習をする。
- ③ 目が□めるようなホームラン。
- ④ 目から□へ抜けるような賢さ。
- ⑤ 動揺して目が□いでいる。

以下余白

